

CODIV-19 感染症対策グローバル教育と監査			
ガイドラインステップ	キーワード (6つ以内)	・活動事例紹介 ・感染症対策 ・教育	・グローバル教育 ・監査 ・労働安全衛生マネジメントシステム
1・8・14			
改善・取組みの背景と課題	<p>当グループは、約 40 カ国に製造拠点を構えており、平時の労働安全衛生活動は、マネジメントシステム(ISO45001)を基盤として、グループ方針、基準、施策をグローバルに展開している。COVID-19 対策においては、本社危機管理対策チーム(安全・衛生・健康部門、人事、総務、法務、コンプライアンスチームなどで構成)と事業部危機管理対策担当者が連携し、早期からグローバルに感染対策を展開してきた。</p> <p>労働安全衛生に関する基準やガイドラインは、策定するだけでは意味がなく、全事業場へ周知され、従業員が理解し、順守されて初めて効果を発揮する。今回の COVID-19 対策においても、感染対策に関するグループ基準を定め、グローバル教育を実施するだけでなく、監査を行い、実施状況のモニタリングとその達成状況に応じた継続的改善を進めることができた。基準の策定、実施、監査、改善というPDCAの流れをしっかりと回すことができるのは、マネジメントシステムを導入している成果である。</p>		
改善・取組みの着眼点	<p>2020 年 1 月、感染症の流行早期から、まずは優先度の高い事項に要点を絞って社内通知を発信した。内容は、渡航制限・禁止に関する情報、マスク着用・手洗い・手指消毒等の感染予防に関する基本的な知識や行動指針などで、計 6 回配信した。その後、ハード面の対策(職場や食堂のレイアウト変更例、パーティションの設置、備蓄品リスト等)やソフト面の対策(手洗い、消毒、マスク着用などのルール、出勤可否の判断、健康観察票等)の両面から COVID-19 対策に関わる事項を網羅的に整理した「COVID-19 ハンドブック」を作成し、21 言語に翻訳し、e ラーニングコンテンツと併せて配信した。</p> <p>職場の感染対策が十分になされるために、ハンドブックで、社内の方針と実施すべき内容を明確に示した。2020 年度はハンドブックの内容が順守されているか自主監査を実施するためのチェックリストの作成、配布を行うとともに、2021 年度は外部監査機関による COVID-19 対策監査を行い、監査の指摘事項をもとに職場改善を行い、良好事例を全事業場に共有した。これらの活動は社内でのクラスター発生防止に寄与した。</p>		
改善・取組みの概要	<p>ハンドブックの内容については、2020 年 9 月 4 日から e ラーニングを用いて教育を開始した。e ラーニングでは、ハンドブックの内容に基づいたスライドに音声を添付した約 30 分の動画を作成し、メールにて配信、周知した。社員番号に基づいたログイン ID を用いて web 上で受講させることにより、個人を識別して受講率の管理を行い、最終的に全従業員が受講した(受講率 100%)。</p> <p>また、10 月 13 日から、事業場ごとに、ハンドブックで規定された感染対策の導入状況についての自主監査を開始した。全 204 事業場の担当者にエクセルで作成したチェックリストを配布し、自主監査を実施させ、その結果を本社に提出させ、要改善事項及び良好事例を全事業場に共有した。e ラーニングの受講状況と、自主監査の実施状況および実施結果は、本社危機管理対策チームが毎週集計し、全事業場に共有し、実施率 100%になるまでフォローアップした。</p>		

<p>写真・図表・イラスト</p>	<p>eラーニングの受講完了率と自主監査の実施完了率は、毎週集計して全事業場に共有した。全社の進捗状況の中での当該事業場の位置づけを示すことで、教育受講及び監査の実施を促した。両者とも、周知後約1ヶ月で8割を達成し、約2か月後には、教育受講率、自主監査実施率ともに100%を達成した。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="323 443 837 750"> <p>自主監査実施率の推移</p> </div> <div data-bbox="845 387 1420 750"> <p>eラーニング受講率の推移（国内、事業部別）</p> </div> </div>						
<p>効果</p>	<p>教育や自主監査は、一般的に、通知を配信しても現場で実施されないことが多い。COVID-19対策では、教育受講率及び感染予防対策実施率は100%とする必要があったため、毎週本社危機管理対策チームが実施率を集計し、全事業場に実施状況を共有し、2ヶ月程度で100%の受講率・実施率を達成することができた。</p> <p>2021年1月まで、国内外の全事業場においてCOVID-19の発生は孤発例に留まっていたが、2021年1月以降、数件のクラスターが発生した。再発予防のための事例検討会において、クラスター事例を詳細に分析したところ、自主監査時は「対策が出来ている」と回答されていた項目が実際は徹底されていなかったことが判明し、自主監査の限界を実感した。2021年6月から7月にクラスター発生事業場及びその他の大規模事業場に対して、外部機関（現地）による監査を実施した。監査及びその事後の改善により、感染対策が徹底され、2021年10月現在、クラスターは発生していない。</p>						
<p>このGPSの経験から学ぶことができるポイント</p>	<p>教育や自主監査は、通知し、コンテンツを提供して、実施を促しても確実に実行することは難しい。マネジメントシステムを導入してPDCAの仕組みを構築していたため、今回の取り組みのように、各事業場の取り組み状況を経時的にモニターし、他事業場と比較した情報を共有できたことが、実施率100%に繋がったと考えられた。</p> <p>また、現実的にクラスター発生を封じ込めるためには、実際の発生事例を分析して不備な点を見出して活動に追加する、いわゆるcheck-actが大切であり、自主監査だけでなく、外部機関の監査を追加することで、自主監査報告と実際の活動とのギャップを補完する機能を持たせることができ、実効性が高まったと考えられた。</p>						
<p>参考資料</p>	<p>『産業保健スタッフのためのISO45001』, 中央労働災害防止協会 2019年11月1日</p>						
<p>COI欄</p>	<p>ご報告内容に関し、投稿者らに開示すべきCOI関係にある企業などはございません。</p>						
<p>投稿者</p>	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 20%;"> <p>簗原 里奈</p> </td> <td style="width: 20%;"> <p>e-mail</p> </td> <td style="width: 60%;"></td> </tr> <tr> <td colspan="3" style="text-align: right;"> <p>2021年10月5日</p> </td> </tr> </table>	<p>簗原 里奈</p>	<p>e-mail</p>		<p>2021年10月5日</p>		
<p>簗原 里奈</p>	<p>e-mail</p>						
<p>2021年10月5日</p>							